大阪府感染症発生動向調査週報 (速報) 2023年 第49週 (12月4日~12月10日)

今週のコメント

~新型コロナウイルス感染症~ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

定点把握感染症

「新型コロナウイルス感染症 増加」

第49週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,750例であり、前週比0.3%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎、手足口病の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.25、5.01、2.57、0.65、0.47である。

感染性胃腸炎は前週比1%増の1,035例で、南河内9.38、大阪市南部6.17、中河内6.10、大阪市北部5.93、 北河内5.84であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は7%増の986例で、大阪市西部7.90、大阪市南部6.89、泉州6.33である。第45週に過去最高を記録して以降、増加傾向が続いている。

咽頭結膜熱は10%減の506例で、北河内4.80、中河内4.00、南河内3.69であった。

流行性角結膜炎は31%増の34例で、三島2.00、大阪市東部1.17、北河内0.83である。

手足口病は9%減の93例で、北河内0.92、南河内0.69、三島0.63であった。

インフルエンザは27%増の6,794例で、定点あたり報告数は22.20である。大阪市北部28.35、南河内27.33、中河内25.32、北河内24.66、堺市24.62であった。府内では、11月、AH1が46%、AH3が54%検出されている。

新型コロナウイルス感染症は25%増の695例で、定点あたり報告数は2.27である。大阪市東部2.95、大阪市北部2.85、堺市2.69、泉州2.50、豊能2.46であった。第46週以降増加が続いている。

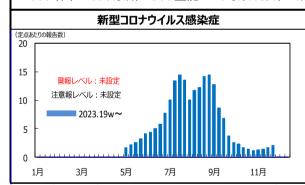




表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向(2023年 第49週12月4日~12月10日)

第49週	第48週	感染症	2023年 第49週の	前週比	2022年 第49週の	2023年第49週の 年齢別		
の順位	の順位		定点あたり報告数	増減	定点あたり報告数	患者発生数 最大割合値		
1	1	感染性胃腸炎	5.25	1%増	3.69	1歳_12%		
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5.01	7%増	0.42	4歳_13%		
3	3	咽頭結膜熱	2.57	10%減	0.13	3歳4歳_16%		
4	5	流行性角結膜炎	0.65	31%増	0.08	20歳以上_56%		
5	4	手足口病	0.47	9%減	0.92	1歳_45%		
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	22.20	27%増	0.65	10-14歳_25%		
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	2.27	25%増	-	20-29歳_13%		

新型コロナウイルス感染症は、定点種別が異なるため、参考として記載しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降(大阪府)』の情報をご覧ください。

詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症(大阪府感染症情報センター)』の情報をご覧ください。

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

2023/24年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

第49週のコメント

〜腸管出血性大腸菌感染症〜 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる(出血性大腸炎)。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。初夏~初秋において、腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加するが、2023年は秋以降も報告数が多いことから、引き続き注意が必要である。

<u>腸管出血性大腸菌感染症(大阪府感染症情報センター)</u> 腸管出血性大腸菌感染症とは(国立感染症研究所)

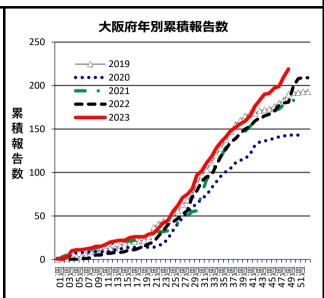


表 2. 大阪府全数報告数(2023年 第49週12月4日~12月10日)

注意: この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ> 【週報】> 全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	9			3					6	219
	アメーバ赤痢	2			1					1	49
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1		1							161
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2					1			1	51
C 粉成流	後天性免疫不全症候群	1								1	70
5 類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		1							49
	侵襲性肺炎球菌感染症	1			1						146
	梅毒	12	1		1	1	1		1	7	1,871
	百日咳	1								1	44
 結核	結核 新登録患者数:96名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 29名)							29名)			
(2023年10月分)	023年10月分) (府内累積報告数 936名、内 肺・喀痰塗抹陽性 318名)									18名)	

(2023年12月12日 集計分)